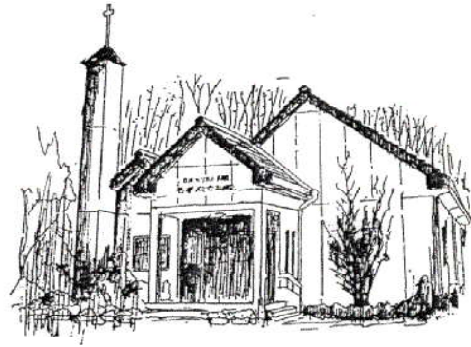


# あがつま



『わたしたちは見えるものではなく  
見えないものに目を注ぎます。  
見えるものは過ぎ去りますが、  
見えないものは永遠に存続するからです』

(コリントの信徒への手紙Ⅱ 4章18節)

## ♪ 賛美歌を歌おう④ 『み言葉をください』

(讃美歌第二編―80番)

神に直接訴えかけるような迫力を持つこの賛美歌は、長く日本基督教団川崎教会の牧師を務め、また盲人伝道に尽力した今駒泰成(1926―2013)によって作詞されました。

今駒泰成(いまこまやすしげ)は東京に生まれ、徴兵で海軍の兵隊になりますが、すぐに終戦となります。敗戦の混乱の中で福音に接し、献身を決心。農村伝道神学校、および日本聖書神学校に学びました。卒業後、川崎教会で牧会にあたりましたが、盲人伝道に専心するため辞任し、日本盲人キリスト教伝道協議会主事を務めました。その後、再び川崎教会、次いで豊島岡教会での牧会にあたりました。

この歌は、今駒が川崎教会時代に、ペンテコステの賛美歌として作詞・作曲したもので、『讃美歌第二編』の歌詞公募に入選。小山章三(1930―2017)がこの歌詞のために新たに作曲しました。

この詞について、作詞者は次のように述べています。

「現代世界の混乱と殺戮の隠れた原因は『バベルの塔』に対する神のさばき、すなわち『ことばの不通』にあるのではなからうか。こうした情況打開の道は、聖霊の恵み(使徒1章)によるひとのことばの疎通・回復にある。それゆえ、ひたすらに百人隊長(マタイ8章)のように『みことばをください』と祈らざるをえない」。

(稲垣)

